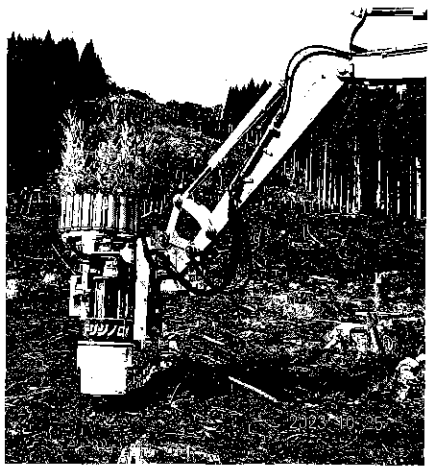
松本シ

植栽機「テリジノロボ」

松本社長

森林施業で、もっとも過酷で危険な作業といわれる下草刈りと植栽作業。そうした作業環境の改善と効率化を目指して松本システムエンジニアリング＝松本良三社長、福岡県糟屋郡篠栗町和田5－2－25＝が開発したのが植栽機「テリジノロボ」だ。自動で掘削・苗投入・転圧まで30秒で実現。傾斜地を平らにして植栽する点に驚かれている。

伐倒造材機と並行して開発を進めているのが下草刈りと植栽用の機械。森林施業において、もっとも過酷で危険な作業といわれる下草刈りと植栽作業をもっと楽な仕事に改善することを目指している。そのコンセプトで開発したのが下刈り装置「アマルガロボ」。4～5tクラスのミニ建機に装着可能なアタッチメントで、全旋回式ローテータを採用。スイング機構によって左右45度のスイングができるなど、キャビン内にいながら下草刈りができるのがポイントだ。


4～5tのミニ建機で使用できる

更に、今回紹介する植栽機「テリジノロボ」は、4～5tのミニ建機に取付けるアタッチメントで、掘削から植付け、転圧まで自動で行う仕組みになっている。300ccまでのコンテナ苗の植栽が可能。1本約30秒で植付けができる同機。転圧をすることで根鉢と土を密着させることができ、実証では苗木の高さ約65～80cm、コンテナ直径約5cmのものも植栽することができたとのこと。

また、同機には水噴射機構を搭載し、水圧で苗クを2個搭載して、約50ccの水を噴射し、その水圧で苗を確実に投入するというものだ。加えて、植付けと同時に水だけでなく液肥などの吹付も行うことができるため、傾斜地でも階段状の植付けも簡単に行える点もポイ

ても垂直に植栽できる点に、来場者から驚きの声があがったそうだ。また、植栽した位置を記録するシステムも開発中である。

下草刈り機と分離できるようにしたことで、時期に応じて使い分けができるようにしたとのこ

できるロングアーム伐倒機「ブラキオEX」に装着することも視野に入れているとのこと。

昨年11月に栃木県塩谷町内の森林で県内の林業関係者のほか、関東森林管理局、林野庁など約100人が参集して実施し

バンチャザウルスDX」とともにデモを行い、きれいに苗木を植える様子を披露した同機。過酷な植付け作業の省力化が実現できることから大きな期待を集めており、販売に向けて準備を進めている。

国際養鶏養豚総合展

4月24～26日名古屋で

「国際養鶏養豚総合展2024」が、4月24～26の3日間（午前10時～午後5時、最終日は午後4時まで）、中央畜産会の主催、農林水産省、愛知県、名古屋市などの後援により、愛知県名古屋市にあるポートメッセなごや第1展示館で開催される。

主な出展者は、アイケイ商事、愛知電機、アキレス、有光工業、大竹製作所、クボタ、蔵王産業、島貿易、JA全農グループ、住友化学、タイショー、日本製紙、フィーネ薬品、フルタ電機、丸和バイオケミカル、明治アニマルヘルス、やまびこジャパン、YEデジタルなど。

また、特設ステージでは、特別講演会（聴講無料）が毎日2テーマずつ行われる。

アイデック

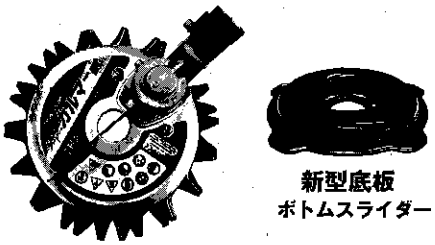
カルマーが更に進化

新型底板で安全・高耐久

ボトムスライダー（底板）で安定作業

アイデック＝伊東潤弥社長、兵庫県加西市北条町栗田182＝が展開している「スーパーカルマーPRO BS」は「スーパーカルマーPRO」に新型底板「ボトムスライダー」を標準装着させた仕様。「ボトムスライダー」は現行のステンレス製底板より厚みを持たせた設計で、刈刃と地面との距離を確保。これにより、地面を滑らせる際の作業性が大幅に向上し、重量感覚を軽減することができる。

また、刈刃の小石などへの接触率が少なくなり、作業中の飛散をさらに抑制することができる。材質に耐摩耗性の高い高分子量樹脂採用で、現行品より大幅な耐久性向上を実現した。



スーパーカルマーPRO（左）と新型底板ボトムスライダー

「スーパーカルマーPRO」は上下刃逆回転ハサミ方式で石跳ねやキックバックが非常に少なく、際刈りや、人・車の多い場所でも安全に作業ができることから、行政が公園や道路、公共施設などでの使用を推奨する地域が急増している。

また、欧米など安全重視の

しい

【希

▽ス

O

20V

▽ボ

30(

高さ

ーカ

けオ

こと

＝4

ライ

S－

－20

セッ

円。

同

日、

開催

料シ

刈り

て展

細は